

# 地場の食品産業と連携した取組事例調査

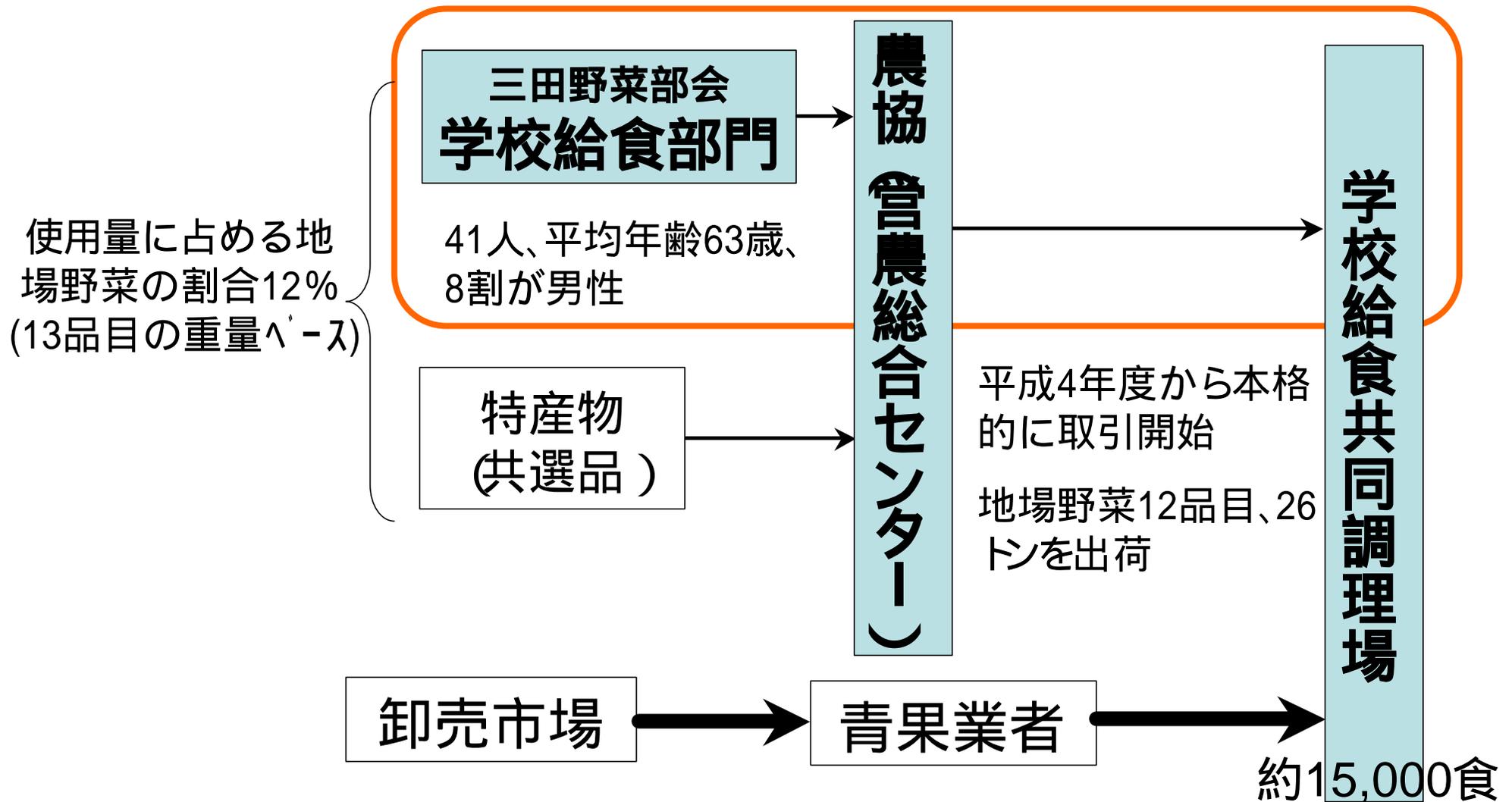
兵庫県三田市における農協を介した  
学校給食での地場野菜使用の事例

農林中金総合研究所

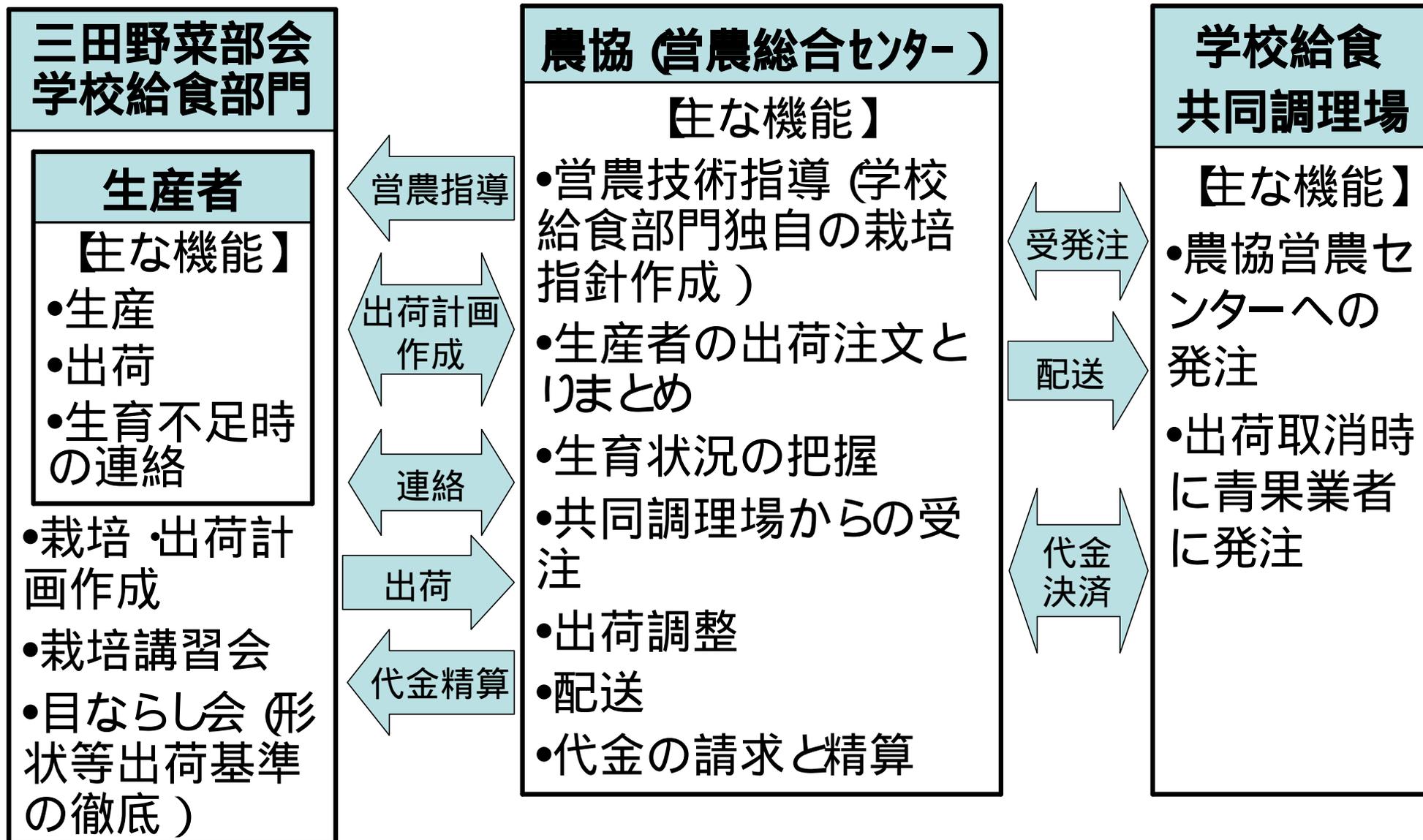


# 1. 学校給食共同調理場における野菜調達の詳細

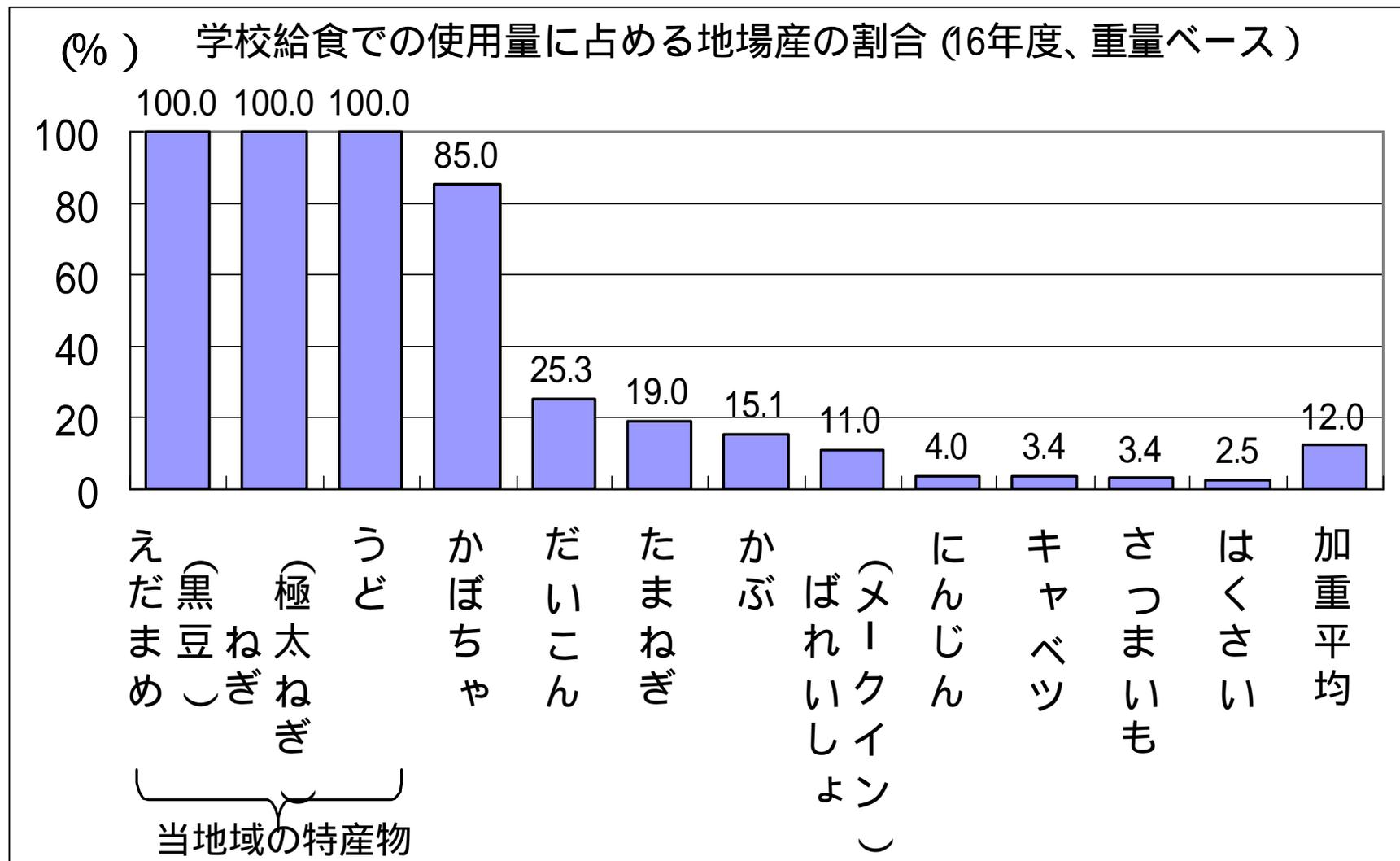
## 本事例調査の対象



## 2.取引の流れ



### 3.野菜の使用量に占める地場産の割合



資料 三田市学校給食課資料

## 4.取引開始時のポイント(1)必要な条件

### 取引に必要な条件

実需側・供給側の  
意思決定・リーダーシップ

対応可能な生産体制

市から  
補助金

市の  
田園都市  
構想

保護者から  
の要望

農協  
から  
補助金

農協の考え方  
「身土不二」

農協が  
学校給食  
専任担当者  
を配置

技術の  
高い  
専業農家

直売所出荷者も出荷

直売所  
開設  
により  
多品目化

農協  
の  
営農  
指導

本事例での対応

## 4.取引開始時のポイント(2)必要な仕組み

### 取引に必要な仕組み

生産者への割当

値決め

生産者への  
代金精算

出荷の公平性の確保

農協が出荷調整

給食部門の会議で  
生産者が収穫量を申請

卸売価格(旬平均)  
価格安定対策事業  
の基準額  
のいずれか高い方

農協の  
システム  
を利用

本事例での対応

## 5.取引が継続しているポイント

### 学校給食での地場野菜使用を制約する一般的要因

天候変動による仕入の不安定

調理場での事務負担増

従来の  
仕入業者  
との関係

共同調理場での対応が  
大きな負担になっていない

農協が共同調理場に早めに連絡

責任が明確

生育不足時  
生産者が  
早めに連絡

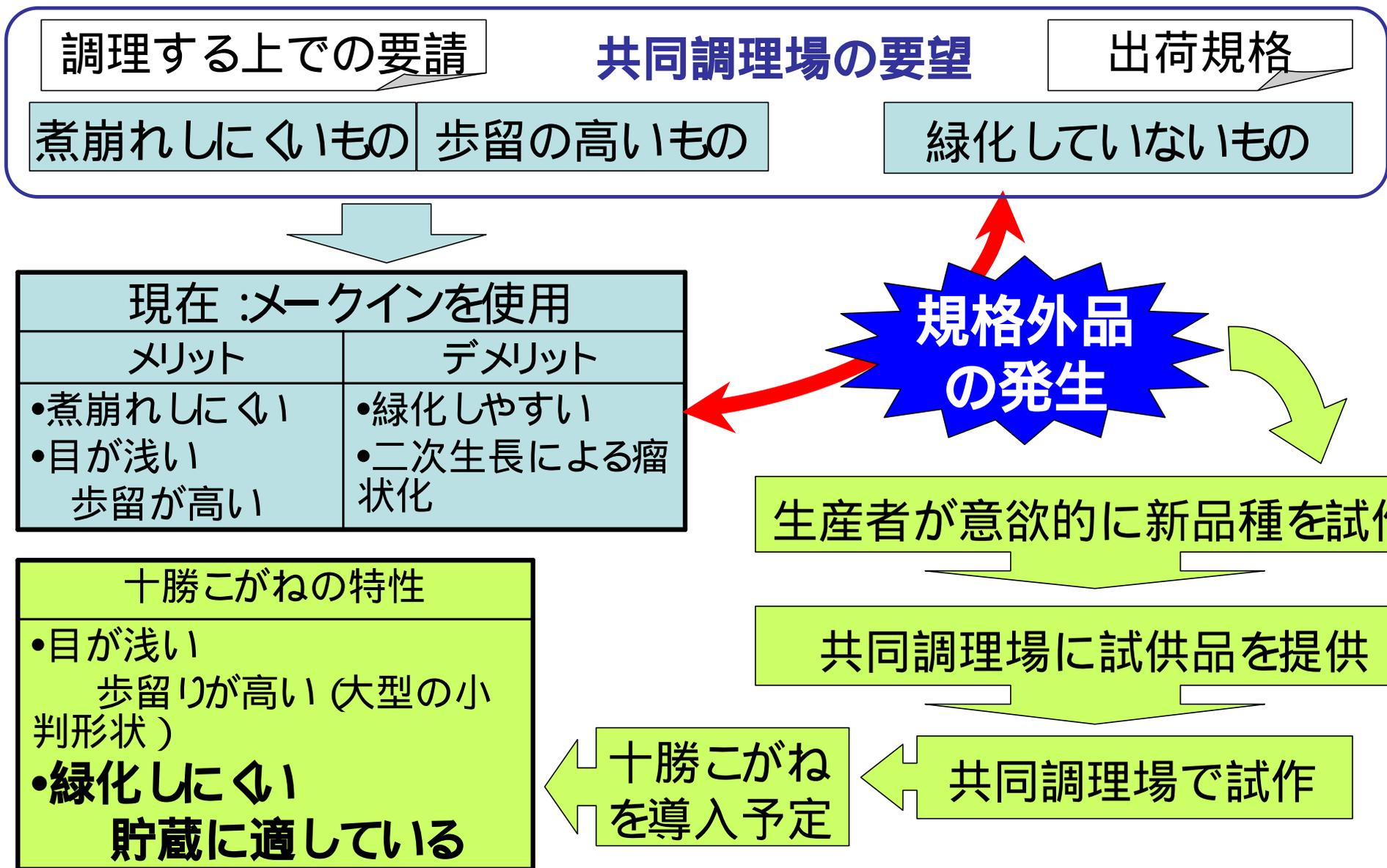
農協が  
圃場巡回して  
生育状況把握

出荷申請時  
に生産者が  
契約書を提出

端境期や  
生育不足時  
の取引継続

本事例で  
の対応

# 6.取引拡大のポイント-新品種の導入 (例 :ばれいしょ)



## 7.残された問題点・課題 規格

規格外品は直売所  
での販売上不利  
なるべく多く出荷したい

出荷物の中に規格外品の混入

調理員の負担増

衛生上の問題

共同調理場  
が規格表  
を作成

規格外品に対して  
市と農協が補てん

給食用の  
目ならし会  
の実施

本事例での対応

対応の効果が十分に発揮されず

課題 :直売所での付加価値販売 (減農薬栽培をアピール)

## 7.残された問題点・課題 価格

現状	卸売価格か、価格安定対策事業の基準額のいずれか高い方で値決め
問題点	生産者は手間の割には価格が低いと感じている 取引の継続性への懸念
原因	生産者は直売所価格と比較している (多くの生産者は卸売市場ではなく直売所に出荷)

## 7.残された問題点・課題 コンテナの衛生

現状	たまねぎとばれいしょ以外はコンテナ出荷
問題点	泥が付着したままのコンテナで出荷 衛生上問題
原因	収穫時にコンテナを圃場に持ち込み、そのコンテナで出荷
現在の対策	出荷するコンテナを圃場に持ち込まないように、目ならし会等で注意喚起